

学校法人 福原学園  
平成23年度事業計画

平成23年3月

# 目 次

## 1 . はじめに

## 2 . 事業の概要

( 1 ) 学校法人	1
1 ) 大学改革の推進	
2 ) 学生募集活動の充実	
3 ) 教育研究環境の整備	
4 ) 財政基盤の確立	
5 ) 管理運営体制の整備	
( 2 ) 九州共立大学	4
1 ) 教育・研究の充実	
2 ) 学生支援	
3 ) キャリア支援	
4 ) 学生確保	
5 ) 学部等の改編	
6 ) 地域連携・地域貢献	
7 ) 国際交流	
( 3 ) 九州女子大学・九州女子短期大学	8
1 ) 教育・研究の充実	
2 ) 学生支援	
3 ) キャリア支援	
4 ) 学生確保	
5 ) 学部等の改編	
6 ) 地域連携・地域貢献	
7 ) 国際交流	
8 ) 記念事業への対応	
( 4 ) 自由ヶ丘高等学校	11
1 ) 教師の資質向上	
2 ) 進学実績の向上	
3 ) 部活動の推進	
4 ) 生徒募集の強化	
( 5 ) 九州女子大学附属幼稚園	12
1 ) 折尾幼稚園	
2 ) 自由ヶ丘幼稚園	
3 ) 鞍手幼稚園	

## 1 . はじめに

福原学園は、平成22年度に平成25年度までの4年間にわたる「中期財政計画」を策定した。教育環境の整備、入学者の安定的な確保等を目標とした本計画を継続的に推進することにより、財政再建を行い、安定的な経営基盤を確立し、社会のニーズに対応した教育の具現化に取り組むこととしている。また、平成20年度に「福原学園設置大学中期計画」(以下「中期計画」という。)を策定し、11項目の重点課題を掲げ、教育研究支援、学生サービス等の向上に努めている。

九州共立大学では、昨年度に(財)日本高等教育評価機構の認証評価を受審し、一定の評価を得たことにより、本年度は高等教育機関としての真価が問われる重要な年度となる。

九州女子大学・九州女子短期大学では、九州女子短期大学子ども健康学科の開設年度にあたり、大きな転換期を迎える。

自由ヶ丘高等学校においては、教師の資質向上、生徒の「文武両道」の推進、広報活動の活性化により、更なる改革を図る。

九州女子大学附属幼稚園においては、鞍手幼稚園を新たに加え、各幼稚園が連携を図りながら特色を発揮できる体制をより強化し、教育の充実を図る。

福原学園は、建学の精神「自律処行」に基づき、「中期財政計画」と以下に掲げる各設置校の「事業計画」を着実に実行することを使命に本年度の事業を推進する。

## 2 . 事業の概要

### (1) 学校法人

#### 1) 大学改革の推進

九州共立大学、九州女子大学、九州女子短期大学(以下「学園設置大学」という。)においては、学生・保護者が満足する教育サービス体制を確立するため、平成20年度に6ヶ年計画の中期計画を策定し、実行している。学園設置大学は、中期計画に掲げた取り組み事業に対する自己点検・評価を行い、当該年度の進捗・達成度評価と次年度の課題抽出・取組項目を立案することで、各年度の事業計画を策定している。

学園設置大学の改革の推進にあたり、本年度は、教育組織の充実と以下に掲げる項目を最優先課題として掲げ、事業計画の実行・点検・評価・改善に努めるものである。

#### 学部・学科改編の検討

学生募集状況等を踏まえ、九州共立大学経済学部、スポーツ学部、九州女子大学家政学部について、学部・学科の改編を念頭に置いた改組構想の検討を行う。

#### 学園設置大学の連合大学院設置の検討

教員養成6年制に係る国の施策等も踏まえ、学園設置大学における連合大学院の設置構想の検討を行う。

### 九州共立大学・九州女子大学共通教育機構の設置

昨年度に設置した九州共立大学共通教育センターと九州女子大学共通教育機構の連携を促進し、両教育組織で実施する共通教育の共通化の検討、人材の有効活用、外国人留学生等に対する日本語教育支援の業務等を推進するため、九州共立大学・九州女子大学共通教育機構を設置する。

## 2) 学生募集活動の充実

18歳人口の減少、経済不況が大学入試に影響している。特に九州地区の高等学校の進学状況は、地元志向、国公立志向に加え安定志向が一段と強くなっているため、以下の施策により学園設置大学の学生募集活動の充実を図る。また、学生募集の検討課題については、法人事務局と学園設置大学が連絡調整を行い学生確保に努める。

### 高校訪問の充実

九州各県・山口県においては入学アドバイザーが定期的に高校訪問を実施しているが、学園設置大学に志願者が見込まれる新たな重点地区の高校訪問を実施する。

### 大学案内の早期作成

学園設置大学の大学案内を5月中に作成し、6月から本格的に始まる進学相談会等で受験生・進学指導者・保護者に対して大学の教育・特色について広報を行う。

### 進学ネット・ホームページの充実

進学ネット・ホームページの充実を図り、受験生に対して学園設置大学の教育内容や特色等幅広い広報を行う。

### オープンキャンパスの充実

現在、学園設置大学で行っているオープンキャンパスの見直しを行い、高校生の要望に応えられる内容の充実を行うとともに、九州女子大学・九州女子短期大学については新たに6月にオープンキャンパスを実施する。

## 3) 教育研究環境の整備

教育研究目的を達成するために、中期財政計画に沿って着実に施設・設備環境の整備を図る。

### プールの建設

九州共立大学に各設置校が共用できる25mプールを建設する。

### 九州女子大学・九州女子短期大学耕学館空調設備の更新

平成6年度に設置した九州女子大学・九州女子短期大学耕学館の空調設備を防衛省の補助金を活用して更新する。

### 情報処理教育用機器の更新

九州共立大学の情報処理教育用機器380台、九州女子大学・九州女子短期大学の情報処理教育用機器120台を更新する。

### 九州共立大学三種陸上競技場の公認更新

陸上競技場の三種公認を更新する時期が到来したが、改正された新公認基準に適合させるため、インフィールドに天然芝を植栽する。また、必要な機器備品も購入する。

#### 九州共立大学球技場の緑化計画

九州共立大学球技場のうちサッカー場、ラグビー場のインフィールドを緑化して競技環境を整備する。

#### 九州女子大学・九州女子短期大学本館建替え計画

老朽化した九州女子大学・九州女子短期大学本館を建替えるために、必要な規模、仕様等を継続して検討する。

#### 自由ヶ丘高等学校の野球場移転計画

前項の九州女子大学・九州女子短期大学本館の建替えに際し、建設場所を確保するため、自由ヶ丘高等学校の野球場の移転を計画しているが、平成24年度に新野球場設置が着工できるように具体的計画を策定する。

### 4) 財政基盤の確立

教育研究上の目的を達成するためには良好な財務状況を維持することが必要である。既に中期財政計画を策定して、平成25年度までに財政収支状況の改善を計画しているが、この計画で掲げている目標を実現するため経費の削減を図り、平成24年度に向けた予算編成に努力する。

#### 経費の抑制

効率的な学校運営を行い、経費の抑制を図る。

#### 財政収支の改善

中期財政計画で掲げている目標達成実現に向けて、本年度予算の適切な執行にあたる。また、中期財政計画の平成24年度目標に基づいた平成24年度の予算編成に全力を尽くす。

### 5) 管理運営体制の整備

人事の適正化のため、職員採用・昇任の方針の明確化・適切化を進め、かつ職員の資質向上に繋がる運営体制を整備する。また、事務等の効率化・合理化を図り、教育研究支援のための事務体制を構築する。

#### 教育職員の人事評価制度の確立

教育職員の人事評価を継続実施し、また、評価内容の点検・見直しを実施することにより、人事評価システムの精度を高める。

#### 事務職員の人事制度の充実

事務職員の資質を向上させる人事制度の構築に向けて、管理職登用制度、昇任昇格制度、等級資格制度の検討を行う。

#### 事務組織の機能・編成の見直し

事務職員のより必要性の高い分野への配置や事務組織の活性化等により、事務機能の高度化を図る。

#### 組織の効果的・機動的な運営

全学的な意思決定を効果的・機動的に行う体制を整備するため、各種委員会の見直し、事務情報化の推進を行う。

#### 教育職員、事務職員の協働体制の確立

各種委員会に事務職員が参画し、教育職員、事務職員の一体的な運営を図る。

#### 危機管理体制の整備

公益通報に係る規定を整備し、法令違反の抑制、早期発見を図る。

## ( 2 ) 九州共立大学

### 1 ) 教育・研究の充実

教育機能、教育活動、教育支援、教室外学習の充実により、学習成果（ラーニング・アウトカム）の一層の充実を図り、設定した学習目標の達成を目指す。研究活動については、外部資金獲得を推進する。

#### 教育専門能力の向上

教育内容の改善、教育職員の相互研鑽、授業内容の実質化、質保証等を図るため、職員の職能開発「ファカルティ・ディベロップメント（FD）」、「スタッフ・ディベロップメント（SD）」を中心とした組織的な研究・研修を実施する。

ア．授業評価学生アンケートの実施・充実

イ．大学FD委員会主導による授業改善の実施

ウ．「FD・SD研修会」の開催

エ．FD指導機関の設置

#### 授業の充実

キャリア、教養、専門、教職等の課程毎に重点化する教育目標を設定し、当該科目において、特に重視する教育目標を明確にする。さらに、授業毎に設定された授業到達目標に対する到達度を成績評価の基準とするよう見直しを図る。また、教室外学習の充実を図る。

ア．授業記録システム「Syllabus On Line」の活用

イ．学生の学力、学生満足度の向上（授業前後のケア、理解度テスト）

ウ．シラバスの改善、向上（シラバスコーディネーターの配置）

エ．入学時の基礎学力調査（テストの実施）

オ．少人数教育科目の導入

カ．出席管理システム体制の運用

キ．成績評価の公正、厳正化（GPA）

#### 教育組織の充実

面倒見の良い大学を実現するために、既存のシステムや組織を分析し、既存組織の更なる活用、より効率的な運用を図る。

ア．経済学部においては、学部運営の短・中期戦略として、BSC（バランススコアカード）の手法で戦略マップを策定して、学部教育目標を可視化し、学生目線に立った教育内容の充実を図り、学生満足度の向上に努める。

イ．スポーツ学部においては、本年度より、3領域で構成されていた現行の教育課程を4コースに改編する。教育内容の専門性をより明確にし、各コースでの主目標資格を体系的に位置付け、実社会で生かせるリーダーシップが発揮できる人材を育成する。

ウ．既存の教育支援組織である九州共立大学学習支援センター、九州共立大学・九州女子大学・九州女子短期大学生涯学習研究センター等の円滑な運用と効率化を目指した再編成を行い、新たな教育支援機構設置に向けた調査・検討を実施する。

エ．学習・学生生活両面にわたる障がい学生支援体制の構築に向けた調査・検討を実施する。

#### 学習サポートの充実

修学レベルの底上げを組織的に行うため、入学前学習サポート、導入教育、補習教育等による授業以外での教育活動において学習支援を行う。

ア．入学前学習サポートの実施（授業準備、基礎知識の確認、初年次教育との連携）

イ．図書館での新入生に対する情報リテラシー教育の実施

ウ．学習意欲向上を目指した九州共立大学学習支援センターの利用促進（やる気支援、理解度支援）

エ．学部教育における資格取得の充実

オ．大学施設等の利用促進（キャンパスマイレージ制度の運用）

#### カリキュラム、プログラムの充実

資格取得のニーズに応えるべくカリキュラム等の充実を図る。

#### 共同研究、受託試験等の促進

九州共立大学総合研究所における研究活動は、本学経済学部自然科学系教育職員、スポーツ学部教育職員、九州女子大学自然科学系教育職員を中心に行い、学外フェア等へ研究成果を出展するよう研究推進を図る。一方、総合研究所の活動を金融、教育関係にも広げ、人文系教育職員が社会に貢献できるような体制作りを推進する。

ア．研究助成金応募の促進

イ．隔年の研究発表会の実施

ウ．学外フェアへの積極的な参加

エ．総合研究所の整備充実、先端技術等の総合研究の推進

オ．奨学寄付金獲得の推進

カ．研究における社会との連携、受託研究の促進

キ．大学研究紀要、学会誌、学術雑誌への積極的投稿

#### 附属図書館の整備と活用

自学自習のための図書館機能とサービスの提供、図書資料の充実を図り、利用者の増加を目指すとともに、新しい学術情報のあり方に適応する機能を整え利用者のニーズに応じて効果的なサービスを提供する。

## 2) 学生支援

学生生活の支援を強化し、学生生活環境を充実させ、学生の主体的な取り組みを支援することにより、学生満足度の向上を図る。

#### 健全な学生生活環境の提供

少人数クラス編成を行い、基礎教育の充実を図り、建学の精神、学部の理念、学部の目標等の周知を行う。

ア．オリエンテーション、ガイダンスの充実（帰属意識の醸成、仲間づくり、退学者防止に関する取り組み）

イ．新入生に対する宿泊研修の実施

#### 施設設備の充実

学生が活用する福利厚生施設について、学生のニーズに沿った検討を行い、福利厚生施設の充実を図る。(寮、学食、売店、喫煙所、駐輪場等)

#### 人間形成の支援

学生が主体的に運営する組織の構築を図り、学生満足度の向上、活力ある学生生活、自主活動の促進等により大学活性化を推進するとともに、学生組織(学友会等)の運営・充実を目的とした指導・管理の徹底を図る。

#### 学生ニーズの組織的な聴取

学生の意見を大学運営に反映させ、学生満足度の向上を図る。

ア．学生代表からの定期的な意見の聴取、懇談の実施(キャンパスミーティング)

イ．学長主導による学生満足度調査の実施(学長アンケート)

### 3) キャリア支援

建学の精神に基づき、社会人・職業人として自立していくために必要な基盤となる能力や態度を育成することを通じて、一人ひとりのキャリア発達を促す教育を展開し、社会の期待に応えられる人材を養成する。

#### 少人数個別指導の徹底

キャリアアドバイザーによるキャリアインタビュー制度を十分に機能させ、健全な学生生活環境の確保に努めるとともに、キャリアシート作成の徹底を図る。

#### コミュニケーション能力の充実

生涯キャリア支援教育(キャリアデザイン科目)の内容充実を図りつつ、現行の実学的専門教育の更なる充実と新たなインターンシップの導入を行い、本学が推進している「私力(わたしりょく)」を育成する。

ア．専門職員(キャリアカウンセラー)によるキャリア支援の充実(CPSカフェとの協働、人材派遣会社の活用)

イ．現代GP「生涯キャリア開発型教育システム」の実績を土台とした「生涯キャリア支援による就業力育成」の取り組みの徹底

ウ．インターンシップの充実(現行システムの拡充と起業体験型・課題解決型インターンシップの導入と充実)

#### 就職決定意識の啓発

「キャリアデザイン科目」との連携を図り、CPSイベント、座談会、講座等を実施するなどキャリア教育の側面支援(補講・補習)に対する特別プログラムを導入する。

#### 就職活動支援の強化

学生の気質や能力に応じた就職ガイダンスを企画し、社会人として身につけておくべき能力や就職活動に必要な情報を提供するとともに、「学内合同企業セミナー」を開催する。

### 4) 学生確保

入試方法の多様化とホームページを中心とした募集広報活動の充実を行い、大学の特色を理解した高校生から社会人に至る入学希望者の増加を図る。

入学後から卒業までのサポート体制充実による満足度向上

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー（DP））、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー（CP））、大学入学者受入方針（アドミッション・ポリシー（AP））をはじめ、教育の理念と目標、教育指導体制、成績の評価方法、就職、進学状況などについて積極的に情報を公開する。

受験しやすい環境づくり

学内の情報を集約する体制を構築し、魅力ある大学であることを積極的にアピールすることにより受験生確保に努める。

ア．受験者実績数による地方会場の見直し

イ．入試要項の見直し

ウ．奨学生制度の見直し

大学に関する理解促進

ホームページ運営体制を確立し、広報活動の充実、情報提供の強化を図る。

ア．本学の強みについての高校向け広報を強化

イ．本学のホームページ、進学ネット・ホームページ等、インターネットを活用した広域広報の強化

ウ．オープンキャンパスに向けたバスツアーの実施

#### 5) 学部等の改編

経済学部、スポーツ学部については、人材育成ニーズに応じて定期的に点検・評価を行う。併せて、経営企画本部改革推進室との連携を十分に図り、学部等の改編を念頭に置いた改組構想の検討を行う。

#### 6) 地域連携・地域貢献

積極的に地域社会と関わりを持ち、サービスの提供を心がけ、地域あつての大学であることを念頭に協力関係を構築する。

地域企業・他大学との連携

地域の高等教育機関・地域交流の場として活動体制を整備する。

ア．学園の研究、実験設備を利用したオープン・ラボ、レンタル・ラボ構想

イ．K I G S（北九州イノベーションギャラリー&スタジオ）との連携強化

ウ．地域大学との授業交流（大学コンソーシアム関門）

高大連携強化

オープンキャンパスや出前講義により、高校と大学の相互理解を図るための連絡協議会を設置し、高校生への個別指導と推薦入試との連動を図る。

ア．系列高等学校との連携強化

イ．近隣高等学校との連携拡大

地域の生涯学習機会の充実（大学施設の開放等）

大学の施設の開放、専門的知識・技術の提供等を通じて社会人キャリアアップや地域の振興等の支援を行う。

ア．公開講座プログラムの拡充

イ．行政、地域団体との連携強化

ウ．ボランティア活動支援強化、主催行事の推進

情報公表等の推進

大学の教育研究成果を公正かつ適切に学内外に広報活動する体制を整備する。

- ア．学校教育法施行規則改正に基づく教育情報の積極的な公表
- イ．「生涯学習研究センター人材バンク」の整備と拡充

#### 7) 国際交流

国際化への対応として、世界各国との交流を活発化する。協定校との学生の相互交流として、協定校からの編入学生、短期留学生の受け入れを継続し、留学生に対する支援体制の構築を図るとともに、本学学生の協定校への留学を促進する。また、協定校からの教員受け入れを引き続き実施するとともに、留学生の日本語教育等の充実を図る。

##### 協定校との学生交流の推進

本学へ協定校から編入学生や短期留学生の受け入れを継続的に実施し、新たに昌原文星大学からの短期留学生を受け入れる。本年度は更に留学生の受け入れを増やすために新規協定校の開拓等を行う。

##### 教員相互交流の推進

上海海洋大学との学術交流、教員交流、教員受け入れを引き続き実施するとともに、新たに内蒙古大学との学術交流・教員交流を推進する。

##### 留学生支援体制の充実

昨年度は、九州共立大学・九州女子大学・九州女子短期大学国際交流・留学生センターの留学生支援室を学生支援課に再編し、効果的な指導体制を確立した。また、新たな民間アパートを確保し編入学生の受け入れ態勢を整備した。本年度は、日本語教育の充実、履修指導、生活支援の他、留学生のための就職支援等の更なる充実を図る。

### (3) 九州女子大学・九州女子短期大学

#### 1) 教育・研究の充実

教育活動については、学生の学習意欲を喚起させ、学習成果（ラーニング・アウトカム）が社会貢献に繋がる教育を実践する。また、研究活動については、外部資金の獲得や地域社会との研究活動の連携強化を促進し、学習目標を達成するための基礎となる研究活動の成果を授業内容に反映させる。

##### 学生の質の維持・向上

学生が修得すべき学習目標に従い、専門的な学芸を教授するとともに、幅広く深い教養、総合的な判断力を培うため、教養教育やキャリア教育を充実強化し、豊かな人間性を涵養する教育を行う。

ア．成績評価法、成績評価基準の明確化・周知

イ．キャリア教育の充実と教養教育の充実、教養科目の組織的な再編成

ウ．少人数ゼミによる導入教育（フレッシュマン教育）の実施

エ．入学前学習のサポートの実施

##### 授業改善の支援体制の整備

わかりやすい授業の提供や効果的な授業方法の改善等を図るため、FDを中心とした組織的な研修等を実施する。

ア．FD推進委員会の効果的運用

イ．教室内設備機器の更新

### 教育組織の充実

教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化を図るため、教育研究を適切に遂行するにふさわしい運営体制を構築する。

ア．九州女子大学家政学部人間生活学科においては、5領域の学問分野の連携を十分に図り、教育内容の充実に努める。同学部栄養学科においては、リメディアル教育・国試対策講座等、教育指導体制を充実・強化し、管理栄養士国家試験合格率90%以上を目指す。

イ．九州女子大学人間科学部人間発達学科においては、開設2年目を迎え、設置の趣旨に基づいた教育課程を着実に履行し、多彩な免許・資格を生かすことのできる人材の養成に努める。

ウ．九州女子短期大学子ども健康学科においては、本年度4月より開設することから、設置の趣旨に基づいた教育課程を着実に履行し、教育実習や職業体験を通して社会が求める実践的な能力を身に付けた教育者の養成に努める。

### 社会的ニーズへの対応

高等教育機関として、社会が求める人材育成に応えるべく外部の機関等との連携を強化する。

ア．教育実習現場等との連携強化

イ．認証評価結果、自己点検・評価結果に基づく改善

### 研究活動の促進

科学研究費補助金の説明会の開催や申請業務の補助を行うとともに、個人研究費を傾斜配分し、その一部を成果配分研究費として配分する等、研究活動に対する組織的な支援体制を整備する。

ア．競争的研究資金（科研費等）への応募の義務化や共同研究の積極的な推進

イ．地域社会との研究活動に対する連携強化、支援体制の整備

ウ．優れた研究活動に対する報奨制度の制定

エ．研究活動の成果に対する点検・評価の実施

### 教育研究環境

教育研究環境を整備して自主的・自発的学習を促進させるとともに、学内外へ研究成果を公開しながら、研究活動を拡充させる。

ア．新生や在学学生を対象とした図書館資料の検索方法の指導

イ．大学研究紀要に関する年間スケジュールの見直しと電子媒体化の推進

## 2) 学生支援

学生生活支援の充実のため、学生生活における多様化したニーズに対しての学生サービスを提供する。

### 相談・助言体制の整備

ア．総合相談窓口「九女ルーム」の活用

学生の多様化したニーズに対応するため、九女ルームの支援内容の充実に努める。また、新生に対し、オリエンテーション等を通じて周知を図り活用を促すとともに、在学学生も含め九女ルーム利用満足度70%を目指す。

イ．生活マナーの指導強化

年間5回程度の生活マナー講習会を実施し、学生の参加者数500名程度の確保に努める。

#### 経済支援の一層の充実

各種学外奨学金の情報収集を行いながら、学生の就学条件を満たしていくとともに、後援会の支援事業や同窓会による支援事業の充実に努める。

#### 学生ニーズの組織的な聴取

学生満足度を向上させることを目的として、定期的にキャンパスミーティングを開催し、学生代表との意見交換を通じて学生のニーズを直接聴取する。

### 3) キャリア支援

学生生活支援の充実のため、学生生活等における多様化したニーズに対応したキャリア支援を行う。

#### 学生支援推進プログラムの推進

キャリア形成支援の推進と学生支援推進プログラムとして実施している就職相談窓口の運営、ストレス耐性強化講座、企業面談会、社会人マナーの強化、企業面談会等、卒業生満足度アンケート調査、雇用主による卒業生の実績評価、事業展開の検証を行う。

#### 大学就業力支援事業の実施

昨年度に採択された九州女子短期大学の就業力支援事業を事業計画に従って本格的に実施する。

#### 免許、資格支援体制の強化

福岡県教育委員会主催の「ふくおか教員養成セミナー」への連携協力を促進するとともに、教員免許更新講習を引き続き開設する。

### 4) 学生確保

入学者選抜方法について、毎年の実施結果を踏まえ受験生の動向等の情報を収集し、見直しと改善を行うとともに、求める学生像を明確にし、魅力ある大学であることを積極的にアピールする。

#### 入学者受け入れ方針の明確化

大学、学部レベルのA Pの明確化・周知と学科レベルのA Pの見直し

#### 入学者選抜方法の充実

ア．学科単位の入学者選抜方法、選抜基準の見直し

イ．奨学生制度の見直し

ウ．学生募集における高等学校等への密接な対応

### 5) 学部等の改編

家政学部については、人材育成ニーズに応じて定期的に点検・評価を行う。併せて、経営企画本部改革推進室との連携を十分に図り、学部等の改編を念頭に置いた改組構想の検討を行う。

### 6) 地域連携・地域貢献

地域社会との研究活動等を連携強化し、大学の知的財産を地域社会に還元するとともに、大学の認知度の向上を図るため、教育職員の研究内容を中心とした情報公表を促進し、地域のニーズ等情報収集を組織的に行う支援体制を整備する。

学校教育法施行規則の改正に基づく教育情報の積極的な公表

学生によるボランティア活動の継続的な実施と支援強化

研究活動の地域連携を図るための組織的な支援体制の整備

「生涯学習研究センター人材バンク」の整備と拡充

## 7) 国際交流

協定校との学術交流、学生交流、教員交流を引き続き実施するとともに、新規協定校の開拓を行うなど交流の拡大を図る。

### 協定校との学生交流の推進

協定校との学生交流については、本学へ協定校から編入学生や短期留学生の受け入れを継続的に実施し、新たに湖南女子学院からの短期留学生を受け入れる。本年度は、平成24年度編入学定員40名の確保のため新規協定校の開拓等を行う。

### 教員相互交流の推進

上海海洋大学との学術交流や中華女子学院との共同研究・教員交流を引き続き実施するとともに、新たに湖南女子学院との学術交流を推進する。

### 留学生支援体制の充実

昨年度は、九州共立大学・九州女子大学・九州女子短期大学国際交流・留学生センターの留学生支援室を学生支援課に再編し、効果的な指導體制を確立した。また、折尾マンションを改修し留学生寮として、生活環境を確保するなど平成24年度からの編入学生の受け入れ態勢を整備した。本年度は、履修指導、生活支援の他、留学生のための就職支援等の更なる充実を図る。

## 8) 記念事業への対応

九州女子大学が、平成24年度に創立50周年を迎えることから、九州女子短期大学の創立50年と併せ九州女子大学・九州女子短期大学創立50周年式典準備委員会（仮称）を設置して準備を進める。

## (4) 自由ヶ丘高等学校

### 1) 教師の資質向上

教師に求められる多様な資質能力を高めるためには、なによりも日々の職務に傾注し、様々な力量を身につけるとともに職務の遂行を通して自らの課題を明確にし、資質の向上を図ることが大切である。併せて、豊かな人間性と指導力を持った、生徒にとって魅力ある教師であり続けるために常に自己研鑽し、日々の教育活動を通して自らを創造性豊かな人間として鍛え上げていくことが必要である。

初任者研修や研究授業を実施するとともに、全職員を対象とした校内研修、講演会などを実施し、教科指導・生徒指導の更なる向上を図る。

### 2) 進学実績の向上

本校の教育目標、教育方針に沿って、生徒の学力などを踏まえた教育課程の編成を行い、各学科・コース・クラスの特色を活かした教育の充実を図り成果を上げる。

#### 統一カリキュラムの実施

本年度は、普通科の2コースを、特別進学コース、特進アドバンスコースとし、統一カリキュラムでスタートする。年間を通して授業時間数を確保するとともに教科指導・生徒指導の体制強化を図る。

#### 受験対策指導の強化

受験対策指導の強化を図ることにより、難関国立大学・私立大学の現役合格者の増加を目指し、ブランド校としての礎を確固たるものにする。併せて、系列の九州共立大学・九州女子大学・九州女子短期大学との連携を強化する。

### 3) 部活動の推進

部活動を積極的に取り組む日々の活動により、学年・クラスを超えての交流により協調性や忍耐力が育まれる。このことは人格形成や身体的な成長にとって非常に大きなものであり、学業向上にも繋がり、卒業後の長い人生においても大きな財産となる。また、アスリートを育成することにより学校全体の活性化を図り、本校の掲げる「文武両道」の高等学校を目指す。

### 4) 生徒募集の強化

就学人口の減少、公立高校の授業料無償化、厳しい経済状況などを踏まえ、志願者数・入学者数を安定的に確保するため、中学校・塾に対する積極的な広報活動を推進する。特に、本校の教育内容、教育施設などの情報を、ホームページ、オープンキャンパス（名称キャンパスツアー）進学説明会、学校見学会等を通じ、中学生・PTA・中学校・塾に効果的・効率的に発信することで学校PRを図る。

また、受験生の利便性を考慮し、本校会場以外に入学試験会場を設置するなどの充実を図る。

## (5) 九州女子大学附属幼稚園

本学園は、昨年度に学校法人福原愛郷学園から鞍手幼稚園を継承して新たな設置者となり、九州女子大学附属幼稚園は、既設の折尾幼稚園、自由ヶ丘幼稚園と併せて三幼稚園になった。今年度は、三幼稚園が相互に連携を図るとともに、各幼稚園の特色を活かして、保育内容、教育課程外活動、職員研修等を充実し、大学・地域との連携を促進する。

### 1) 折尾幼稚園

#### 園児の確保

- ア．教育方針の共通理解、献身的な奉仕精神の涵養等による園活動の充実
- イ．地域内の未就園児に対する広報活動の充実
- ウ．施設設備環境の整備
- エ．満3歳児クラスの強化

#### 保育内容の充実

- ア．相互クラス間での参観研修等による教育職員の能力向上
- イ．実情に応じた教育課程の検討
- ウ．集団生活における基本的理念の修得など特色ある保育の堅持
- エ．目標管理の徹底による意識共有の強化
- オ．小1プロブレムの課題解消に向けた読み・書きなどの教育

#### 大学・地域との連携

- ア．学園設置大学との連携（大学構内を活用した保育、「大型紙芝居」作成参加など）
- イ．地域との連携（子育てサロン、老人ホーム慰問など）

#### 研修の充実

- ア．園児の夏休み期間を利用した研修会参加、研修報告会の実施
- イ．新人・転入教育職員への研修の強化

#### 教育課程外の充実

- ア．避難訓練、防犯訓練、健康指導等の安全教育の充実
- イ．カリキュラム作成等による預かり保育の充実
- ウ．英語教室、水泳教室等との連携

### 2) 自由ヶ丘幼稚園

#### 園児の確保

保護者、園児にとって魅力ある幼稚園をつくるとともに、広報活動・未就園児教室に力を入れる。

- ア．ホームページの更新、幼稚園ネットへの登録継続等の広報活動の強化
- イ．未就園児教室（わくわく保育）の充実

#### 保育内容の充実

教育目標具現化のため以下の取り組みを行う。

- ア．園の教育目標達成に向けた保育活動のシステム化
- イ．日々の保育活動の質的向上

#### 大学・地域との連携

運動教室、リトミック指導等を学園設置大学との連携により充実させる。

#### 研修の充実

- ア．園児の夏休み期間を利用した研修の実施
- イ．各教育職員のテーマに沿った個人研修の実施

#### 教育課程外の充実

保護者のニーズに応え、ピアノ教室、英語教室等を実施する。

### 3) 鞍手幼稚園

#### 園児の確保

- ア．魅力ある未就園児教室（ぐんぐんクラブ）の開設と充実
- イ．広報活動の拡充
- ウ．安定的な園児確保とブランド幼稚園の創造

#### 保育内容の充実

以下の項目をはじめとする鞍手幼稚園の教育方針の具現化に努める。

- ア．5つの心（明るい心・素直な心・感謝の心・反省の心・積極的な心）を備えた子どもの育成
- イ．自然環境との対話により生命尊重・優しい心を備えた子どもの育成
- ウ．美しいもの美しいと感じる豊かな感性を備えた子どもの育成

#### 大学・地域との連携

- ア．近隣の小学校との交流活動
- イ．地域行事への参加・協力
- ウ．学園設置大学との連携による「運動遊び」の実施
- エ．米作りから収穫までの体験活動（年長組）と収穫祭
- オ．地域の「名人さん」の発掘（名人バンクづくり）と体験活動

#### 研修の充実

- ア．教育効果を高めるための理論と実践の研究（園内研修、園外研修）
- イ．研修会等参加者の報告会と協議

#### 教育課程外の充実

- ア．スポーツ教室、絵画・造形教室、ECC英語教室の実施
- イ．ものづくり教室、子育て教室（くらんべりい）の実施